

実りある授業のために 小学校（音楽）

〔H24. 冬〕 島根県教育委員会

♪ 1 教材研究のポイントについて

①教材研究において大切にしたいこと！

- ・音楽科では、題材の目標や学習指導要領の指導事項や子どもの実態等を踏まえて、扱う教材曲を選定・分析し、表現や鑑賞の指導のポイントを導き出すことが教材研究の視点となる。そのことが、子どもの教材曲や学習内容への興味・関心を高め、主体的・創造的に表現や鑑賞の学習に取り組む授業を展開することにつながっていくことになる。

②教材分析の視点について！

<音楽的な特徴>

- ・教材曲には、その楽曲のよさや面白さなどを生み出している音楽的な特徴がある。それが〔共通事項〕アの「音楽を形づくっている要素」の働きであり、この点をしっかりと把握することが教材研究の根幹となる。
- ・前述のことについて、歌唱共通教材「とんび」（第4学年）を例に考えてみると、「旋律」「反復」「問いと答え」の働きに視点を当てることができる。

◇ 1、2、4段目の旋律は、上行し下行するようになっている。

◇ 3段目の「ピンヨロー、ピンヨロー」の部分は、同じ旋律が2回反復し、それぞれが問いと答えのようになっている。
（下線は、作成者によるもの）

- ・鑑賞教材の場合においては、聴かせる演奏の音源そのものが教材となる。例えば「そりすべり」（L.アンダーソン / 作曲）では、そりを引く馬の蹄の音を表すウッドブロックのリズムや鞭の音の特徴の一つと考えられる。また、この教材曲を複数の演奏で聴き比べてみると、音楽を特徴づけている要素（リズム）は共通していても、その表れ方（音色、強弱）は演奏によって様々であることがわかる。このように音楽的な特徴を視点にして楽曲分析を行うことが、教材化へのポイントとなる。
- ・鑑賞の教材研究では、指導のねらいに即して、複数の演奏を聴き比べて、どの演奏が教材としてふさわしいのかを吟味することも極めて重要となる。
- ・音楽的な特徴に加えて、音楽表現上の課題となる視点を考慮することが、教材分析の質をより向上させることにつながる。

<歌詞の内容や曲の背景>

- ・いくつかの日本民謡を鑑賞する学習で、「ソーラン節〈北海道民謡〉」（第4学年）、「南部牛追い歌〈岩手県民謡〉」（第4学年）における曲の分析とその背景を考えると、前者は拍節的なリズム、後者は拍節的でないリズムで歌われる。前者はニシン漁、後者は牛を使った荷物の運搬の際に歌われた労働歌である。また、労働の様子や従事する人々の労苦などは、その歌詞の内容に表れており、労働の違いが音楽の特徴にもわかりやすく表れている。
- ・歌詞の内容や曲の背景の理解が基盤となることで、「音楽的な感受」の深まりが生まれてくる。

③効果的な教材研究のために！

- ・教材研究において以下のような作業を十分に行うことが、授業の内容を深みのあるものにする。

- ◇ 教材曲を何度も聴いたり、歌ったり演奏したりする。
- ◇ 歌詞や楽譜を丁寧に読み取り、分析する。
- ◇ 楽曲の背景について、様々な情報を集める。

♪2 思考力・判断力・表現力等の育成について ～指導と評価の視点から～

①【共通事項】を手掛かりとして、思考・判断をうながす学習指導の在り方について！

○歌唱「とんび」（第4学年共通教材）の音楽表現の創意工夫を中心とした授業場面（例）

教師：歌ってみて、感じたことやイメージしたことを発表してみよう。

A児：とんびがゆったりと空を飛んでいる感じがするよ。

B児：ピンヨロー、ピンヨローと呼びかけ合っているようだね。

教師：ゆったりと空を飛んでいると言っていたのは、音楽のどこからそう感じたのかな。

A児：旋律がなめらかに上がったり下がったりしているから。

教師：それは楽譜のどの部分だろう。

C児：一段目と二段目じゃないかな。

D児：四段目もそんな感じがする。

E児：でも三段目は違っている。Bさんが言っていた、呼びかけ合っているところだね。

教師：どうしてそう感じるのかな。

E児：高い音と少し低い音でピンヨローとくり返して、呼びかけに答えているようだから。

- ・上記の子どもたちの発言は、[共通事項]の内容でいう、音楽を形づくっている要素を聴き取り、よさや面白さを感じ取っているという《音楽的な感受》を育てている学習状況の一例である。
- ・波線部は、音楽を形づくっている要素の『聴き取り』を深めている状況である。
- ・波線部の発言から考察すると、子どもたちは「反復」や「変化」や「問いと答え」を聴き取っており、この後、教師が「この歌のとんびは何羽で鳴いているのかな？」「どんな様子なのかな？」などと問いかけることによって、子どもは歌詞の内容を含めて想像力豊かに感じ取りを深めていることがうかがえる。
- ・前述のように、[共通事項]の事項ア（反復・変化・問いと答え）を学びの手掛かりとすることで、教師が「聴き取ること」と「感じ取ること」をそれぞれ関連させながら指導していく手立てを講じていくことが大切となる。
- ・音楽の学習は[共通事項]の事項アで完結するものではない。《音楽的な感受（「聴き取ること」と「感じ取ること」）》を基にしながら、音楽表現を工夫し、一方で有用感のある技能を身に付け、どのように表したいかという思いや意図をもって、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりすることが大事である。

②評価規準の設定について！

【音楽表現の創意工夫】

①「とんび」の旋律、強弱、フレーズ、反復、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、②歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように表すかについて自分の考えや願い、意図をもっている。

- ・【音楽表現の創意工夫】の①は[共通事項]の事項アに関わる内容であり、②は歌唱にかかわる指導内容である。このように、《音楽的な感受》を基盤としながら、どのように思いや意図を表していくかについて、音楽表現を通して評価していることが読み取れる（指導と評価を一体化）。
- ・実際の評価活動においては、①と②を分けて評価したり、一体的に評価したりすることが考えられる。この①と②の内容を評価規準に位置付けることが観点の趣旨を生かした取組につながる。